



作陽学園は2010年に80周年を迎えます
くらしき作陽大学

KURASHIKI
SAKUYO
UNIVERSITY
ORCHESTRA



日時:2010年1月20日(水)
18:30開場/19:00開演

会場:倉敷市民会館

入場料: S (指定席) 7,000円
A (指定席) 5,000円
学生券(当日指定) 1,000円

※学生券は当日17:00より座席指定券と引換

お問合せ:くらしき作陽大学演奏芸術センター
(086-436-0300)

プレイガイド:アルスクらしきチケットセンター
(倉敷市文化振興財団086-434-0010)
インディスク(天満屋倉敷店4F)(086-422-1457)
ヤマハ倉敷店(086-422-7331)
ヤマハ岡山店(086-224-5331)
岡山シンフォニーホール チケットセンター
(086-234-2010)
くらしき作陽大学事務局(086-436-0300)

主催/学校法人 作陽学園
(くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学)
倉敷市民会館

後援/岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会
倉敷市文化振興財団・岡山県吹奏楽連盟
くらしきTMO(倉敷商工会議所内)・玉島商工会議所・(社)倉敷法人会
朝日新聞岡山総局・岡山日日新聞社
読賣新聞大阪本社・山陽新聞社
毎日新聞岡山支局・岡山リビング新聞社
NHK岡山放送局・OHK岡山放送・KSB瀬戸内海放送
RSK山陽放送・TSCテレビせとうち・RNC西日本放送
エフエムくらしき・岡山エフエム放送・Radio MoMo
玉島テレビ放送・Oniビジョン・倉敷ケーブルテレビ
くらしき作陽大学同窓会(鶴声会)・作陽短期大学同窓会(翠会)

合同演奏会

プラハ交響楽団



学校法人 作陽学園 創立80周年記念
くらしき作陽大学管弦楽団

若者たちに音楽の贈物

東西の文化都市

プラハと倉敷の饗宴

鬼才 飯森範親がクリエイト



©Yuki Hasumoto

指揮
飯森範親
(本学特任教授)



ピアノ
松本和将
(本学特任准教授)

プログラム

スメタナ Bedřich Smetana

交響詩《モルダウ》
連作交響詩《わが祖国》より

Symphonic Poem "Vltava (Moldau)"
from Cycle of Symphonic Poems "Má vlast (My Fatherland)"

ショパン Frédéric Chopin

ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11
ピアノ独奏:松本和将

Piano Concerto No.1 in E minor, op.11
Piano solo: Kazumasa Matsumoto

ドヴォルジャーク Antonín Dvořák

交響曲 第9番 ホ短調 作品95 《新世界より》
Symphony No.9 in E minor, op.95 "From the New World"



PRAGUE SYMPHONY ORCHESTRA



指揮：飯森範親

桐朋学園大学卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年に東京交響楽団の専属指揮者に就任。以来、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、大阪・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、広島交響楽団正指揮者を歴任。96年、東京交響楽団のヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。03年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビュー。日本人指揮者として唯一の年間ベスト10コンサートに選出された。海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコフィル、プラハ響など世界的なオーケストラに客演を重ね、01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督に着任。日本ツアーを成功させるとともに、ベートーヴェン交響曲全集をリリース。現在、東京交響楽団正指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度 中島健蔵音楽賞を受賞。07年シーズンより山形交響楽団の音楽監督に就任、意欲的な取り組みを相次いで打ち出して内外の注目を集めている。

2008年よりくらしき作陽大学 特任教授として同学のオーケストラの指導に当たっている。
オフィシャル・ホームページ www.iimori-norichika.com



ピアノ：松本和将

1979年、岡山県倉敷市に生まれる。幼い頃よりピアノに目覚め、倉敷青陵高校在学中、地元で演奏活動を行うと共に、ホロヴィッツ国際ピアノコンクール第3位など国内外のコンクール高校の部で上位入賞。また、ジュニアオーケストラやバンド等、幅広い音楽活動を経験する。東京芸術大学1年(19才)で、第67回日本音楽コンクールに優勝し、併せて増沢賞をはじめ全賞を受賞。

1998年より各地での活発な演奏活動を開始。ソロリサイタルや室内楽をはじめ、これまでにプラハフィル、読売日響、日本フィル、新日本フィル、東京交響楽団、東京フィル、東京シテイフィル、群馬交響楽団、ベルギー国立オーケストラ、大阪フィル、岡山フィル、倉敷音楽祭祝祭管弦楽団他多くのオーケストラと協演。

2001年、第53回プゾーニ国際ピアノコンクール(イタリア)第4位。2003年、世界三大コンクールの一つ、エリーザベト王妃国際音楽コンクール(ベルギー)で第5位入賞を果たす。2006年、ベートーヴェン3大ピアノソナタで全国ツアーを行う。2008年バイオリンの渡辺玲子氏とNHK-FM「ベストオブクラシック」に出演。ビクターエンターテインメントより9枚のCDをリリース、各誌で絶賛される。近年はジャンルを超えて、和太鼓、箏、尺八など和楽器とのコラボレーションやジャズにも興味を広げている。

谷口厚子、芦田田鶴子、故中島和彦、角野裕、御木本澄子、バスカル・ドヴァイヨンに師事。岡山県芸術特別顕賞、倉敷市芸術文化栄誉章、福武文化奨励賞、マルセン文化賞、エネルギー音楽賞受賞。

2009年より東京芸術大学、くらしき作陽大学にて後進の指導にもあたる。
公式HP:<http://www.kaz-matsumoto.com>



プラハ交響楽団

1934年、指揮者ルドルフ・ベカーレフにより、FOK交響楽団(Film Opera Konsertの略)の名称で創設された。42年にヴァツラフ・スメターチェクが音楽監督となり、その30年間にわたる就任期間の間に彼はこのオーケストラをチェコ第一級のオーケストラに育て上げた。52年、名称をプラハ交響楽団と改める。77年には弱冠30歳のイルジー・ピエロフラーヴェクが音楽監督兼首席指揮者に就任し、彼の在任10年の間にチェコが世界に誇るオーケストラとしての地位を築き上げた。2006年よりイルジー・コウトが首席指揮者に就任。



くらしき作陽大学管弦楽団

くらしき作陽大学管弦楽団は、作陽音楽大学としての創立時より、プロオーケストラプレイヤーの育成、並びに地域音楽文化発展寄与の両面を目標に活動してきた。渡邊暁雄・岩城宏之両氏の指導の下、その実力は飛躍的に向上した。更に、平成20年度より、国内外で高い評価を得る飯森範親氏を指導者として迎え、また、弦楽器・管打楽器には当学の優秀な教員が指導にあたり、より充実した授業と活動の更なる向上を目指している。演奏会は年2回の定期演奏会の他、地域音楽文化発展寄与の面から、岡山県内外の学校を対象とした芸術鑑賞教室、高校・市民を対象とした演奏会への賛助出演等活発である。飯森氏の指揮により2009年9月16日に開催された第39回定期演奏会(於・藤花楽堂)でのムソルグスキー＝ラヴェルの組曲「展覧会の絵」はしめの演奏は満員の聴衆に絶賛を博した。

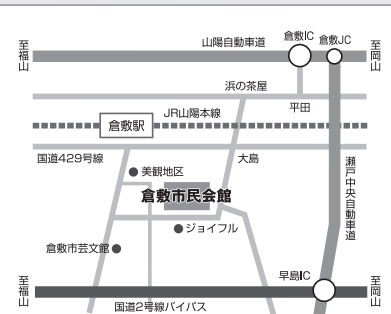
学校法人 作陽学園 創立80周年記念

くらしき作陽大学管弦楽団

プラハ交響楽団

合同演奏会

【会場案内】



- JR山陽本線倉敷駅から
徒歩：20分
バス：児島方面行き天城経由で「市民会館前」下車すぐ
タクシー：5分
- 倉敷IC(山陽自動車道)から車で15分
早島IC(瀬戸中央自動車道)から車で15分
※ただし、駐車場は十分な台数がございますので、
公共の交通機関をご利用ください。